

## 令和2年度知事定例記者会見[抜粋]

### 令和2年4月14日 知事定例記者会見[抜粋]

#### ○時事通信

ありがとうございます。

3点目ですが、九州新幹線の西九州ルートに関してですけれども、これも同様に、新型コロナウイルスが拡大する中で、国土交通省の協議入りに関しての現在の進捗状況、そしてまた、感染拡大によって今後協議の開始への影響というものはあるのかどうか、この辺をお伺いいたします。

#### ○知事

まさにコロナと格闘している毎日で、ほかの仕事のことが、イメージから大分飛んでしまっているところもあるんですけども、この新幹線の話でいうと、我々のほうから協議の前提となる考え方について、事務的ペーパーをお出ししたら、たしか見え消しがいっぱい入ったやつが来て、我々からすると、例えば、責任を持って内容について確約するということが消えていたりとか、どういうことなのかなと、ちゃんと国のほうから説明を受けないといけないねという話をしたところで止まっていたと思うんです。

ということで、説明に来ていただくという段階だったと思うんですけれども、この新型コロナウイルスの関係があって、今そういう環境が整わないという状況なのかなと思いますので、こちらのほうも新型コロナウイルスの状況を見て、いずれ見え消しの説明に来ていただくという状況なのかと思っております。

#### ○時事通信

予定が今のところ定まっていないという状況ですか。

#### ○知事

そうですね。我々はそもそもかねてから申し上げているように、考え方は首尾一貫していて、全くぶれていないと思っています。3つ今まで合意したことについてであればすぐ前に動き出すし、残りの2つであると、かなり様々な問題が横たわっていて、簡単にいく問題じゃないということです。ですから、我々からすると、そんなに急いでいるという状況にないと思っておりますけれども、それでも国交省さんはまた別の事情があるのかもしれない。しかし、今、新型コロナウイルスでその協議ができるような状況がなかなか整わないということなんだろうというふうに思います。

#### ○朝日新聞

新幹線の関係で2点あるんですが、まず新鳥栖－武雄温泉間の先ほど協議がで

きるような状況は整っていないというお話しでしたけど、これは例えばテレビ会議とか、そういうものを持ちかけられたときも、やはりコロナ対応でなかなかばたばたしている中で難しいということなのか。

#### ○知事

今、県庁が全庁的にそれぞれコロナウイルス対応をしております。その中で、テレビ会議でやるというところの必要性の順番という意味で、私は劣るのではないかと思いますし、ぜひこれはあの見え消しのやつというのは、ぜひ国交省の方が来て、お互い何というんでしょう、どういう考え方でああなったのかなというところというのはしっかり対面して話すべき内容かなと認識しています。

#### ○朝日新聞

それと、暫定開業で並行在来線になる区間について、維持管理費の割合で長崎県等に対しての話があったと思うんですが、あれについてはその後何かあるんでしょうか。

#### ○知事

私は整理がついたという話は聞いていないんですけれども、なかなかそこは難航しているんだろうと思います。お互いのテーブルに着くことに関しては、お互い鹿島のほうに事務所を持っているというところは進んでいると見ておりますけど、その先のような難問がありますから、そういったところについてはまだ調整が調っていないと聞いております。

### 令和2年5月28日 知事定例記者会見[抜粋]

#### ○西日本新聞

あと1点です。JR九州が昨日、赤字ローカル線について発表して、県内からは唐津線と筑肥線が含まれましたけれども、これについての受け止めをお願いします。

#### ○知事

まず、我々としても努力は必要だと思います。JRさんも事業を営んでいる会社だから、そういったところを公開していくという姿勢についてはいいんだろうと思いますが、私は黒字のところも出していかれたらいいのかなと。

それで、やはり公共的な主体なので、JR九州さんの情報をできるだけガラス張りにして、じゃ、どうやって支え合っていくべきなんだろうかというところは一緒に考えてもらったらいいいのかなと思うんです。県でいうと、非常にうまくいっていないようなところだけを情報開示するようなことになるんだよね。我々としても別にそれでいいと思っているわけではないので、例えば、筑肥線の唐津－伊万里間もそうだけれども、できる

だけいい活用がないかということも考えないといけないねというところは地元とともに考えていきたいと思っておりますので、指定公共機関というのは言いましたけれども、非常に公益性の高い会社だと私は思っています。ですから、その公益性の部分というところを、できる限りしんしゃくしていただいて、しかも、もともと国鉄さんで、みんなの税金でこしらえたようなところがあるわけだから、そういったところをどのように発揮するかをできる限りみんなで意見交換できる、いわゆる九州の仲間としての企業というものにさらに成長していただけるように、我々も一緒になって、そういったところにメンバーとして加わっていききたいと思っております。

## ○共同通信

弊社から、国政課題について2点お尋ねします。

まず、九州新幹線長崎ルートについてなんですけれども、知事は先月の記者会見で、協議について、コロナで環境が調わないとご発言されて、今、中断というか先送りという状態になっていると思うんですけれども、それから1か月たって、全国での緊急事態宣言も解除された現状で、国交省との協議や、協議の前提となる事務レベルでの調整についてのスケジュール感と、県の姿勢についてどうお考えか、お願いいたします。

## ○知事

改めてでありますけれども、赤羽国土交通大臣と話したときにまとまったことは、協議に向けて努力しようということと、その前にしっかり確認をさせていただくということで大臣にも了解をいただいているということだと思っております。

その上で、協議の確認みたいなことをずっと——ずっとというか、1往復しただけでもやらせていただいたということで、今の状況とすると、修正意見が鉄道局のほうから見え消しが来ている段階だと思っておりますけれども、この見え消しも、例えば、様々な条件、数字が必要だけれども、鉄道局が責任を持ってその内容について、例えば、「確約する」とうちは原案に書いたんだけど、「確約する」が消えていたりとか、「大阪のり入れにこだわらない」とうちが書いていたら、そこが消えていたりとか、いろいろ確認したい、どういつもりでこれは線を引っ張られたのかということとか、何でしょうか、中身そのものに関係するような修正が入っているので、それを実直にお話しいただきたいというところだったと思うんです。それをやろうと思っていたら、この新型コロナの関係で、今往来が止まっている状況で、鉄道局からは早くそれをやりたいという話は来ているので、一つのタイミングとすると、6月1日を越えますと、東京圏においても、いわゆる国の指針という意味では、往来が全くできないということではない。以後はしっかり気をつけてやっていくという局面に変わっていく。うちも極力避けてくださいとなりました。もちろん、不要不急で東京に行ったり来たりということはありません。

ども、そういった大事な交渉などについては、一定の制限が解けるタイミングだと思うので、部のほうに6月上旬のしかるべき時期に鉄道局に来ていただいて、見え消しなどについてどういうお考えだったのかということをお伺いする日があるんだと思います。それは公開でやっていきたいと思います。その状況を踏まえて、さらに今後検討が進められていくという流れだと思います。

○共同通信

今度、国交省はそれぞれどなたが6月上旬の面会には出るのかというのはいかがでしょうか。

○知事

少なくとも事務方だと思います。ですので、私の感覚では審議官か課長か、こちらは部長だと思っておりますので、そうした形で会談がなされるということだと思います。

○朝日新聞

細かいところで2点、すみません。

新幹線の話で、年明けに足立課長が県庁にいらしたときは、日時などは公開していただいたんですが、実際の中のやり取りは、マスコミが外に一度出て、その後、囲みという形で応じていただいたと思うんですが、今回に関しては完全に公開ということですか。

○知事

うん、したいと思いますが、まずいですか。

○朝日新聞

いや、ありがたいです。中のやり取りまで見せていただけるならありがたいなと思って。

○知事

基本的には全てガラス張りでこれから交渉したほうがいいと思って。僕らは、すごく佐賀県ってストレートなので、表裏がない県なので、思ったことをちゃんと言うだけです。ですから、国交省さんも思ったことを言われたらいいと思っています。

令和2年7月15日 知事定例記者会見[抜粋]

○西日本新聞

今日は午後に九州新幹線の「幅広い協議」の2回目がありますけれども、これについて、国交省のほうから複数アセスの実施について改めて説明があります。佐賀県と

しては同意できないというふうに答えているんですけども、国交省は最終回答と思っていないと言っていますけれども、佐賀県として検討の余地は残っているのかどうかについて意見を聞かせてください。

#### ○知事

アセスについては、お答えをさせていただいたと思っています。部長のほうからそのお話が来たときにお答えしたので、それが県の回答だと思っていただいて結構です。

そして、このアセスの問題についても同じなんですけれども、我々は、フルとミニについては全く新しい話なので、時間をかけて議論しなければいけない、そんな短期間のうちに判断がつくような話ではないというのは再三申し上げておりますので、そういった環境の中でアセスということについては、我々としては大変違和感を持っていて、これまでも合意したこと、約束されたことが守られていないわけです。ちょっと例を申し上げますと、新鳥栖－武雄温泉間について与党検討委員会でJR九州と長崎県がこれまでの合意を無視して、一方的にフル規格を主張し出したこと、それから、フリーゲージトレインについては初めから分かっていた理由、例えば、山陽新幹線の乗り入れができないとか、コストが高いとか、分かっていた理由で突然断念されたということ、それから、6者合意で最後の最後まで議論になった肥前山口－武雄温泉間の全線複線化、これが一方的にほごにされておりますし、長崎県さんに対しては、誠意として応分の負担をするということが約束されていたことについて、上振れが判明した途端に新たな合意が必要だと言われたりとか、基本的に今までそういったことの歴史の繰り返しなので、我々としてみると、直ちに言われたことについて一つ一つ着実に合意したことを守るといふ佐賀県の思いからすると、そういったものに乗るわけにはいかないと考えています。

#### ○西日本新聞

あともう一つ、先日、赤羽国土交通大臣が佐賀県に来たときにお会いする予定だったんですけども、そこで幅広く意見交換する予定だったというふうにおっしゃっていましたが、改めて大臣とお会いする予定はあるのでしょうか。

#### ○知事

私は常々申し上げておりますように、協議の場というものを活用してということであります。ですので、今日も恐らく国交省さん、いろいろお説を出されると思うし、我々としても部長のほうから佐賀県の思いを話させていただくことになろうと思います。

そういったところを一つ一つしっかりとやっていくという時期だと思います。そうした中で、事務的なものの積み上げが何かできるという関係になったときには、また大臣とお話しするというタイミングもあるのかなのかといった状況だと思います。まずは協議の場をお互いが大切にしていこうということだと思います。

## 令和2年8月26日 知事定例記者会見[抜粋]

### ○佐賀新聞

今度、九州新幹線長崎ルートの新鳥栖武雄温泉間についてお尋ねします。

長崎県の関係者、知事や議会、経済界が、本日、明日と、官邸や自民党本部、公明党、国交省などを回って、2023年度着工の要望活動を実施しています。

また、自民党の佐賀県議団も、フル規格を想定して議論を進めるといった決まりごとをしました。こういったことについて、知事の所感を聞かせてください。

### ○知事

まず、長崎県さんが要望活動をしていることに関しましては、何としてもというような形でやっているというふうに仄聞しておりますけれども、佐賀県の思いについて一顧だにせず、そういう突っ走る行動をしていることについては不快に思っております。

それともう一点の、佐賀県議会についてですが、これは様々な意見があるわけでありまして、県議会は県議会として定員38人、今、37人か。その中でそれぞれの思いというのが議論が闘わされて、その中でこの問題についての様々な議論がなされるということはいいことだと思います。ただ、見出しにあるように、フル前提にということで、フルのほうに行っているというふうな報告は受けておりません。

### ○FM佐賀

新幹線関連なんですけれども、全ての整備方式で環境アセスを行うという国交省の提案を拒否されて、国は予算組みの問題で2023年度までの着工は困難になったというふうなことをおっしゃっているようですが、その受け止めと、それから、国と考えが平行線の状態がずっと続いているわけなんですけれども、今後の協議というのはどういう形になっていくのかというところを教えていただければと思います。

### ○知事

佐賀県の思いというのは首尾一貫して、全くぶれていないわけです。ですので、我々の考え方というものについて、これから協議の場というものはセットされたわけだから、ただ、我々は少なくとも今直ちにスーパー特急だとか、スピードを出さないフリーゲージだとか、リレー方式ということについては、その調整についてはすぐに乗り出す準備はできているわけで、ただ、残りの2つについては、基本的には了解できる環境にないと、全くそういうつもりはないので、長期間検討するというのであれば、しっかり論点を出してということなんですよね。

ですから、そういった中で、お互い協議をしていくということなんだけれども、少なくとも私は常々言っているように、整備新幹線は地元の同意があって、みんなでやれた

いということがまず前提に立つべきだと思っているので、これまでもずっといろいろな合意をしてきたのは、長崎県さんと佐賀県と、そして、JRが合意をして与党に話を持っていったということですよね。ですから、今回はそういう構図ではないので、少なくとも我々としての考え方というもの、その前提がないわけだから、そこについての問題点があると思うし、今思えば与党の協議の中でしっかりと佐賀県の主張というものが――我々はしたわけだけれども、もっと国会議員の中で議論がなされていたらよかったです。

## 令和2年10月23日 知事定例記者会見[抜粋]

### ○時事通信

私も発表内容ではなくて恐縮なんですけれども、まず、九州新幹線西九州ルートについて2点お伺いします。

まず、以前に知事は長崎県知事などから直接面談したいと申し込まれるが、新しい話であれば話したいという要望はお受けしますとおっしゃっていたと思うんですけれども、長崎県などから直接の面談を求める連絡はこれまでにありましたか。

### ○知事

まず、私は常に新しい何かお話があれば承りますという話をしていました。これまで2回ぐらいでしょうか、うちの秘書課のほうに長崎県の秘書課のほうから連絡があって、お会いしたいという話があったということで、私は新しい話があれば聞くと聞いていたので、何か新しい話はございますかと2回とも確認したら、2回ともありませんという言葉だったので、となると今までと同じようお願いしますという場だけになるので、それはあまり生産的ではないので、セットができなかったということなので、これからも別に、今度九州知事会でもお会いすると思いますし、そういった機会もあるので、できれば建設的な話があれば、承りたいという姿勢に変わりはありません。

### ○記者

その点ですけれども、先ほどおっしゃっていた九州知事会の件ですけれども、長崎県が推進しているIRも議題に上がっているとのことなんですけれども、その件もあって長崎からお話があるという可能性も多分あると思うんですが、その場合、新しい話でなくても、一応話合いはお受けするんでしょうか、それとも新しい話でなければ、やはり、同じことだからということでお断りするんでしょうか。

### ○知事

知事会場の場なので、普通に世間話とかある中で、お話はあったにしろ聞くことにな

と思います。私も会えば、会うたびに諫干の開門考えてねと申し上げているので、そこは申し上げたいと思うし、そこは普通にそれぞれ九州知事会のお互いの件でそれぞれいろんな話があるので、そうした中で話合う分には自然なことじゃないでしょうか。

## 令和2年11月20日 知事定例記者会見[抜粋]

### ○共同通信

ありがとうございます。

2点目は、九州新幹線長崎ルートに関してです。

先日、国交省が北陸新幹線の金沢－敦賀間の開業が2023年春から1年半遅れるとの見通しを示しました。これにより敦賀以西の着工も遅れる見通しになるわけです。この区間とのセットとの財源議論という観点からは、新鳥栖－武雄温泉の整備方式に関する議論にも時間的な猶予ができるという見方があります。これについてどう状況を見ていらっしゃるのでしょうか。

### ○知事

北陸新幹線の話というのは衝撃を受けたわけですが、まず、非常に建設費が増嵩するということであって、さらに2,880億円増えるということで、その前年には2,260億円増えるという、これは我々西九州ルートも5,000億円から6,200億円に、1,200億円増えたわけですが、さらに去年に続いてということでありまして、これを調べてみますと、もともと平成24年に認可されたときは、この北陸新幹線金沢－敦賀間は約1兆1,860億円で認可されているんですね。今はもう既に1兆7,000億円ですから、認可されたときに比べて5,140億円、43.3%の、要は143%に増えてしまっているわけです。ということが、我々も前から、じゃ、佐賀のこの区間を、新鳥栖－武雄温泉間を、今6,200億円ということに、これはたまたま同じ数字なんですね、6,200億円ということになっているんだけれども、そのうちの佐賀県の実質負担が660億円と言われていますけれども、これ自体も非常に条件に条件をつけた、貸付料が過大にうちに来るといって様々な条件をつけた上での数字だと思うんですね。いや、この貸付料だって、ずっと先の分までもう食っているし、今回の北陸新幹線の部分で、またこれ貸付料がどうなっていくのかという話もありますよね。

いろんな要素が重なって、やはり新幹線というのは先が高いほうに振れるものだし、そして、先行きが見えないものなので、やはり我々は堅め堅めにしっかり点検しておかないと、後ほど問題になるということ。

それから、質問にあった若干延びるんじゃないかということですが、我々の問題点というのは、やはり特急が激減してしまうと思っていて、今非常に快適な在来

線がどうになってしまうのかというところが最大の課題で、さらに、この財源問題、そして、さらに言えばルート、今、国交省さんが示しているルートは駅を通るルート、それに限られているわけですね。これも、山と言う方もおれば、空港と言う方もおられますし、そういったところもしっかり分析しなければいけない話だと思うんです。それに、さらに地域振興、そして、これからまた時代は変わっていくので、何てことを考えると、検討すべき課題というのは多々あります。ですので、「幅広い協議」ということで、短期間に決められるものではないというのは、事実上、長い時間がかかると思っているのです。この北陸が延びたからその間にというような、そういう問題ではないと思っております。

#### ○佐賀新聞

今日、与党検討委員会のほうが開かれておまして、山本幸三委員長がPTとして佐賀県の負担軽減の試算をするというふうに記者団に述べています。もう一つ、JRと国が来週にも在来線についての協議を開始するというふうにも言っています。

知事はかねてより、新しい提案があれば話を聞くという姿勢を示されていますが、今日の検討委員会のそういった内容についてのご所感をお願いします。

#### ○知事

もう全く、検討委員会が開かれるという話だけしか聞いていないので、具体的にそこで何がなされた、どの話がされたのかは、今、聞いたばかりなんだけれども、いろんなことを議論されることはいいことだと思いますので、そういったところについて、また新しい話があれば、しっかり私は聞いていきたいと思っております。

#### 令和3年1月20日 知事定例記者会見[抜粋]

#### ○OSTS

すみません、ちょっと話題が変わるんですけども、来年秋から九州新幹線西九州ルートが暫定開業される予定になりました。それに関連して2つの意味で質問します。

まず1つ目は、確認という感じなんですけれども、知事はリレー方式、スーパー特急、フリーゲージの3つなら受け入れ可能だと常々言われています。ということは、武雄温泉から長崎駅までのみの新幹線というリレー方式を永久に続けるという形もありだというお考えでよろしいのでしょうか。というのが1点。

もう一つは、そのリレー方式では、武雄温泉駅がターミナル駅になります。武雄というまちの振興という意味で、ターミナル駅になって利用する全ての人が武雄で立ち止まるというプラスの効果というのもあると知事はお考えなのかどうか、この2つの意味でお聞かせください。

## ○知事

今、コロナ対策で毎日、本当に手いっぱい状況なんですけれども、もともと九州新幹線西九州ルートにつきましては、皆さん方の様々な思い、特に長崎県さんの思いというものが機軸になって展開されてきたわけです。ですので、我々からすると自分たちとしてできるスキームというものを出してきて、スーパー特急だとか、フリーゲージだとか、そこまでであれば対応しますということで、これまで合意をしてきたわけなんです。ですので、そういった意味で、我々とするとその2点について、それからリレー方式というものが今回なされるわけだけれども、それについてはその準備をするということがあるわけだけれども、永久にと今おっしゃったけど、それがどうかということについて私がお答えするのはどうかなと思います。

まずそういった意味で、長崎県さんがどう考えておられるのか、それから、これはさらにJR九州さんもありますし、国の考え方もあるでしょう。ただ、我々は全てのミニもフルも含めてその議論を閉ざすということは言っていない。ですので、まず来年の開業ということに関して、みんなでデスティネーションキャンペーンもやっていくわけだから、そこについては成功させて、しかも当分の間、武雄がターミナル駅になるわけです。どういうふうな事態になろうと、今スーパー特急かフリーゲージの開発ができるということがない限りはリレー方式は当分の間続くので、武雄と嬉野というものがしっかりとその中で振興できるように、我々は全力で取り組みたいと思うというわけで、さらに、特にフル新幹線と言う方がおられますけれども、そういうことであるならば、ルートの問題からして佐賀駅だけということじゃなくて、選択論、県議会でも議論しましたけれども、空港を通るルート、それから山を通るルートと主張される方もおられるので、そういったときにはどのような効果があるのかという検証を全くまだできていない。そういうことも含めてしっかりと骨太に議論をさせていただきたいという今、環境なんです。

実際協議の場ということでありまして、我々の方からすると開催する準備は常にできているわけですが、基本的に、国さんのほうがどうされるのか。なかなか今大変だと思います。国は国で、そうした中で、我々とする、協議をするということであればしっかりと協議をさせていただきというふう考えております。

## ○OSTS

武雄がターミナル駅になるということの効果について、もう少しお話しただけると。

## ○知事

そうですね、私は取りあえず来年武雄が拠点になる、言うなれば、これまでは肥前山口から両方に分かれていたものが、多くの列車が武雄経由になり、しかも武雄で乗換えをして長崎方面にも、そして、佐世保方面にも展開ができるようになるわけでありまして、そういった意味でこの武雄の拠点性というものが大きいんだと思います。言う

なれば、逆に言えば、武雄からは福岡にも都市圏にも乗換えなしで行けるという環境になるわけで、それは意図したわけではないけれども、こういった環境になったわけだから、そこは大いに活かしていくべきではないのかと思いますし、私は今県内で分析していると、武雄という地と大村市が今非常に成長しているので、武雄市の特徴というのは本当に子育てがしやすいだとか、住環境がいいだとか、地価が長崎県大村市に比べると安いとか、そういう非常にメリットがありますので、ぜひ武雄に暮らしていただくというものも推奨しながら、長崎県と連携してデスティネーションキャンペーンも成功させて、西九州全体の振興を図っていくというふうに思っています。